

平成26年度第1回仙台市食育推進会議 議事録

開催日時	平成26年7月2日(水) 15時00分～17時00分
開催場所	仙台市役所本庁舎2階 第1委員会室
出席者	
委員 (順不同・敬称略)	相澤かず子 青沼清一 飯川洋一 伊藤志野 熊谷和裕 今野弘子 佐々木悦子 鈴木直子 千石祐子 高橋由美 津志田藤二郎 津田京子 中野俊昭 高橋宮人 板橋秀樹 氏家道也 上田昌孝 (欠席委員：佐藤美佳子 鈴木由美 高澤まき子)
事務局	市民局 消費生活センター所長 健康福祉局 理事 保健衛生部長 保健衛生部参事兼生活衛生課長 健康増進課長 健康増進課保健総務係長 同課健康増進係長 子供未来局 子育て支援課長 保育課長 経済局 農林部長(委員代理) 農業振興課長 中央卸売市場業務課長 青葉区保健福祉センター衛生課長 宮城野区保健福祉センター家庭健康課長 教育局 総務企画部長(委員代理) 生涯学習課長 健康教育課給食運営係長
次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 委員紹介 4. 職員紹介 5. 議事 (1) 会長及び会長職務代理者の選任について (2) 仙台市食育推進計画の概要について (3) 平成25年度食育推進事業実施状況について (4) 平成26年度食育推進事業計画について (5) その他 6. 閉会

発言者等	
<開会>	それでは定刻になりましたので、ただいまから平成26年度第1回

進行	<p>仙台市食育推進会議を開催いたします。はじめに本会議の開催にあたりまして、高橋健康福祉局長よりごあいさつ申し上げます。</p>
<p><挨拶> 健康福祉局長</p>	<p>健康福祉局長の高橋でございます。皆様には大変お忙しい中、委員をお引き受けいただき、そしてまた本日の食育推進会議にお運びをいただきましたことを、心から感謝を申し上げます。</p> <p>本市は平成 18 年にこの食育推進会議を立ち上げまして以来、関係団体や事業者の皆様、さらには市民公募の皆様方との意見交換をしながら、食育活動を進めてまいりました。そのベースにありますのが食育基本法でございます。そこには我が国が目指す食育の方向性が記されておりまして、食育は心身の健康増進と豊かな人間形成に資するという認識の下で国民運動として進めるということが示されているところでございます。</p> <p>取り組みの方向性といたしましては、国民の食生活が自然の恵みの上に成り立っているということに感謝しながら、家庭・保育所・学校・地域などで食習慣の確立や食への理解促進、それから生産者と消費者の交流、伝統ある和食文化の継承、さらには食の安全安心といったことについての情報提供が示されているところでございます。</p> <p>本市では平成 19 年 3 月に策定いたしました第 1 期の食育推進計画で「作ろう 食べよう 朝ごはん」・「和食の良さを見直しましょう」これを行動目標に掲げて取り組んでまいりました。さらに平成 23 年 3 月に策定した第 2 期、現計画でございますが、その中では「食べる力をみんなでアップ！ ～みんなでおいしく楽しく食べよう～」これを基本目標に掲げて、4 つの推進の柱として取り組んでいるところでございます。</p> <p>1 つ目が食を通じた健康づくり、2 つ目が地域の食文化を伝えあおう、3 つ目が地産地消の推進、そして 4 つ目が食品を選ぶ確かな目を持つこと、これらの 4 つの柱に沿って、皆様方も取り組まれているものと考えております。とりわけ本市では若者や子育て世代など、食への関心が低い層を対象とした取り組みの輪を広げることに力を入れております。</p> <p>どの分野に力点を置いて進められるかは委員の皆様方のお考え次第でございますが、この食育推進会議は従来からの申し合わせとして、皆様方が主体的に、あるいは相互に連携しながら、よりよい食育活動を進めるための情報共有の場という位置づけでございますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本日は今年度の事業計画が中心となる会議となりますが、委員の皆様</p>

	様にはそれぞれの取り組みの方針や、食育活動への意気込みなど、建設的なご意見を賜りますようお願い申し上げます、私のあいさつといたします。本日はどうぞよろしくお願いいいたします。
進行	本日の会議は今年6月9日に任期が改まりましてから、初めての開催となります。ここで今期の委員としてご就任いただきました皆様をご紹介申し上げます。尚、恐縮ではございますが、委員名簿順に紹介をさせていただきます。相澤かず子様でございます。
相澤委員	こんにちは。仙台市食生活改善推進員協議会の委員として初めて参加させていただきます。よろしくお願いいいたします。
進行	青沼清一様でございます。
青沼委員	青沼です。仙台市医師会の副会長をしています。よろしくお願いいいたします。
進行	飯川洋一様でございます。
飯川委員	飯川でございます。JA仙台営農部から参りました。今後ともよろしくお願いいいたします。
進行	伊藤志野様でございます。
伊藤委員	市民公募で選ばれました伊藤志野と申します。今年の3月まで京都市で、保育園の管理栄養士をしていました。その力を少しでも出せればいいなと思っています。よろしくお願いいいたします。
進行	熊谷和裕様でございます。
熊谷委員	熊谷です。仙台市小学校長会の代表として参っております。どうぞよろしくお願いいいたします。
進行	今野弘子様でございます。
今野委員	仙台市保育所連合会の代表で参りました。どうぞよろしくお願いいいたします。
進行	佐々木悦子様でございます。
佐々木委員	初めまして。私は仙台・みやぎ消費者支援ネット理事の佐々木悦子です。初めてですので、よろしくお願いいいたします。
進行	千石祐子様でございます。
千石委員	宮城県栄養士会の副会長をしております千石です。よろしくお願いいいたします。
進行	高橋由美様でございます。
高橋(由)委員	仙台市私立幼稚園連合会の役員をやっております高橋です。今回初めてですので、どうぞよろしくお願いいいたします。
進行	津志田藤二郎様でございます。

津志田委員	宮城大学食産業学部の津志田です。よろしくお願いします。
進行	津田京子様でございます。
津田委員	津田京子でございます。市民公募で選んでいただきました。この3月まで保育現場で働いていたんですが、退職いたしまして、少しでも一緒に学んでいけたらなと思いますので、よろしくお願いいたします。
進行	中野俊昭様でございます。
中野委員	日本チェーンストア協会の中野でございます。所属はスーパーのヨークベニマルでございます。よろしくお願いします。
進行	また鈴木直子様には本日遅れてのご出席と連絡をいただいております。このほか、本日はご欠席でございますが、佐藤美佳子様、鈴木由美様、高澤まき子様にご就任をいただいております。併せまして本市職員の4名が委員に任命されております。氏家経済局長、本日は代理として佐藤農林部長が出席しております。
氏家委員（代理で佐藤農林部長）	佐藤でございます。よろしくお願いします。
進行	上田教育長、本日は代理として舩山総務企画部長が出席しております。
上田委員（代理で舩山総務企画部長）	教育局総務企画部の舩山でございます。よろしくお願いします。
進行	板橋子供未来局長でございます。
板橋委員	子供未来局長の板橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
進行	高橋健康福祉局長でございます。
高橋（宮）委員	高橋でございます。よろしくお願いします。
進行	続きまして本日出席しております市職員を紹介させていただきます。佐々木健康福祉局理事でございます。
健康福祉局理事	佐々木と申します。よろしくお願いします。
進行	岩城保健衛生部長でございます。
保健衛生部長	岩城でございます。よろしくお願いします。
進行	大金保健衛生部参事兼生活衛生課長でございます。

保健衛生部参事兼生活衛生課長	大金です。どうぞよろしく願いいたします。
進行	<p>また本日、関係課の職員が出席しております。お手元の市職員出席者名簿をご覧ください。どうぞよろしく願いいたします。ここで本日の会議の成立についてお知らせいたします。現在、委員の過半数の出席となっておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定によりまして、本会議は成立していることを報告いたします。</p> <p>続きまして本日の資料の確認をお願いいたします。お手元の会議資料一覧をご覧ください。食育推進計画第2期概要版、資料1と資料2、参考資料につきましては委員の皆様方に事前にお送りしたものでございます。また本日、保育所連合会様からご提供のランチョンマットと、仙台・みやぎ消費者支援ネット様からのA4の資料を配付しております。以上、資料に不足などございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは議事に入りたいと存じます。</p> <p>本日は委員任期が改まりましてから初めての会議となりますので、まず会長を選任いただきたいと存じます。仙台市食育推進会議条例第5条の規定によりまして、会長は委員の互選により定めることとなっております。皆様からご発言がございますでしょうか。今野委員、お願いいたします。</p>
今野委員	前回に引き続き、宮城大学の津志田先生にお願いしたいと思えます。
進行	ただいま、今野委員から津志田委員をご推薦いただきましたけれども、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。津志田委員、よろしいでしょうか。
津志田委員	はい。
進行	よろしく申し上げます。ありがとうございます。それでは恐れ入りますが、津志田委員には会長席にお移りいただきたいと存じます。それではここで津志田会長からごあいさつをちょうだいしたいと存じます。お願いいたします。
津志田会長	会長に選任いただきました宮城大学の津志田と申します。会長就任にあたりまして一言ごあいさつを申し上げたいと思えます。食べる力をみんなでアップ！ということで、第2期の仙台市食育基本計画が始まりまして、4年目を迎えるわけですがけれども、この大切な時期に推進会議の会長の選任となりまして、大変緊張しております。大切な時期にぜひ皆様と一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、ご協

力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

私たちは震災を経まして、食べるもののありがたさというものを本当に実感いたしました。食べ物に対して感謝の念を忘れないということをお皆さん、ずっと思っておられると思ひますが、この時期になりました、さらに一歩進んで、健康的な食生活をどう送るか、どう構築するかというところへステップアップして行く時期に来ていると感じておひます。

これまでに世界で一番長生きされた方、皆さんご存じでしょうか。フランスのジャンヌ・カルマンさんっていう女性の方です。1997年に122歳と164日で亡くなられたんですね。彼女はもちろん幸せな生活を送ったということですが、やはり長く生きておられたということで、自分の一人娘が先に亡くなられたということなんです。

またお孫さんも一人おられましたけれども、その方も自分よりも先に亡くなられたということですので、長く生きて幸せだったとは思ひますが、その分人生の辛い体験もなされたということになると思ひます。やはりみんなが幸せになるためには、みんなで長く生きるというのが基本です。そこに食育活動が貢献できていけばいいのかなと感じているところであります。

私にも孫がいますけれども、野菜を食べないですね。私は心配なので、どうにかして食べさせたいと思ったりします。小さいころの食体験というのが生涯にわたって、そのころ食べたものがおいしく感ずるといふようなことがいわれていますので、小さいころからしっかりした食体験をさせるということが重要であると、一般的にいわれるようになってきています。

またサイエンスとしても、私たちの脳細胞に舌の味の細胞から神経が伝わる仕組みが確立するのは、3歳から5歳ぐらいの間というふうにいわれていますので、その期間にたくさんの食品を食べたり、あるいはおいしさを味わって、きちんと記憶したり、第2期で基本目標にしておひます「食べる力」をそのころに育てて行くというのが、本当に大事であると思ひています。

青年期から高齢者までなると、自分で考えることがきちんとできますので、食品の価値に関する認識がきちっとできると、その価値に従って食べるということになっていきます。そういうところの活動に関しても、しっかりとやっていかなければいけないと感じているところであります。

このように、どのように食べるかということをお小さいころから、あ

	<p>るいは高齢になるまで支えて活動していくのが食育活動ですので、私たちは非常に重要な活動をこれからやっていくということになりますし、また皆さんにこの活動を通じて大きな恩恵を与えることができるのかなと思っております。この推進会議が有意義な討論の場になるように、ぜひお互いに意見を出し合って、活発なご議論をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p>どうもありがとうございました。これからの議事進行につきましては、会長をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
津志田会長	<p>それでは会議に入りますので、委員の皆様、よろしくお願ひいたします。次に会長職務代理者の指名でございます。仙台市食育推進会議条例第5条第3項の規定によりまして、会長である私が職務代理者を指名することとなっておりますので、私としては前の任期に引き継ぎまして、熊谷委員をお願いしたいと思っております。熊谷委員、よろしいでしょうか。</p>
熊谷委員	<p>はい、よろしくお願ひします。</p>
津志田会長	<p>よろしくお願ひいたします。ではこちらの席によろしくお願ひします。それでは続きまして議事録署名人の指名でございますが、今回の議事録署名につきましては、相澤委員をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p>
相澤委員	<p>はい。</p>
津志田会長	<p>それでは次に移ります。議事の(2)仙台市食育推進計画の概要についてです。事務局から説明をお願いいたします。</p>
健康増進課長	<p>健康増進課長の斎藤でございます。平成23年3月に策定いたしました仙台市食育推進計画、この第2期の概要版の資料を用いまして、ご説明を申し上げたいと思います。</p> <p>はじめにこの計画は、先ほど局長の話にもありましたとおり、食育基本法に基づきまして、食に対する知識を身につけ、健全な食生活を実践することができる人を育てることを目指して、平成19年3月に前期計画を策定いたしました。この概要版をお開きいただきますと、4ページにわたって広く開いていただくその左側のところ、それから1つ目を開いていただいたこの状態で説明を聞いていただければというふうに思います。</p> <p>平成22年度までのこの5年間の取り組みの中で、市民の皆様の食育についてのご理解も大分進みまして、こちらとしては一定の評価をしているところでございます。けれども調査等をいたしました結果、</p>

その一方ではさまざまな課題も見えてまいりました。

具体的にはやはり若い世代が食への関心が低いこと。それから子育て世代や 20 代 30 代の若い人に朝食を食べない人が多い。そして健康的な食生活がなかなか実践されにくい。食文化伝承の機会が少ないといったようなことが実態として見えてまいりました。このような課題を改善するために、こちらの第 2 期計画を策定して、引き続き取り組んでいるところでございます。

この計画期間ですが、平成 23 年度から 32 年度までの 10 年間としておりました。国の健康日本 21 第二次の考え方や本市の健康づくり計画であります第 2 期いきいき市民健康プランがございまして、それらとの整合性を図った取り組みを展開していくために昨年度、この協議会の場においてご承認をいただきまして、期間を 2 年間延長しました。平成 34 年度までの計画期間に見直しを行い、中間評価を平成 29 年度に行う予定としてございます。

資料のちょうど真ん中のところを開いていただきますと、「食べる力をみんなでアップ！」という、この目標を掲げまして、食育活動を通して食の大切さに気づいて、お互いに食べる力を育て合うということを目指しているところでございます。

さらにこの目標を達成するために、4 つの推進の柱というのを先ほど局長から紹介させていただきました。ちょうど見開きにさせていただきまして、オレンジからブルーまでの 4 色で 4 つの柱を表現してございます。こちらの 1 つ目の柱は「食を通じた健康づくりを实践しよう」でございます。食育への関心を高め、健康的な食習慣を身につけることができるように、情報発信して関心を高めていただき、体験の場などもつくるような取り組みをしているところでございます。

2 つ目の柱は「地域の食文化を伝えあおう」でございます。郷土料理、郷土食ですとか行事食などの食文化への理解を深めるために、地域のつながりをベースに、お互いに食文化を伝えあうような活動を工夫していただいているところでございます。

3 つ目の柱は「地産地消をすすめよう」でございます。こちらは生産者ですとか、流通関係者の方々との交流を深めたり、そういう機会をつくることによって、食材への理解を深め、子どもたちの身近な場での地産地消の実践や体験の場をつくるという活動でございます。

4 つ目の柱は「食品を選ぶ確かな目を持とう」でございます。昨今、さまざまな食品の安全を脅かすようなことが起きておりますので、食品の安全性についての正しい知識を習得するために、正しい情

	<p>報を積極的に伝えるという取り組みを進めているところでございます。</p> <p>次に概要版の見開きで、そのまま内側の右側をご覧ください。こちらは乳幼児期から高齢期まで、ライフステージごとに目標を明確にしております。本日までご参加いただいております委員の皆様方におかれましても、それぞれが食育推進事業の実施主体として、世代に応じたさまざまな活動を展開していらっしゃると思います。本市としては特に学生や子育て中の親などの若い世代、それから働き盛りの世代に対する取り組みを、地域の関係者の皆様方と連携して推進しております。後ほどその取り組みの一端をご紹介させていただく予定でございます。</p> <p>この食育推進会議につきましては、食に関わるさまざまな実施主体の皆様で構成されておまして、これからも計画の策定や進捗状況の評価などにご参加をいただく予定になっております。この基本目標に向かって連携して、食育を進めていくための課題共有の場と位置づけております。本日までご紹介するような取り組みを、市民や関係者の皆様方に広く周知する活動につなげてまいりたいと考えております。以上で説明を終わります。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。説明いただきましたが、皆様のほうからいただいた説明についてのご質問、あるいはコメント等ありますでしょうか。</p> <p>それでは次の議題に移ります。議事（3）平成 25 年度食育推進事業実施状況についてです。資料 1 の平成 25 年度食育推進取り組み事例集をご覧ください。これは皆様にご提供いただいた昨年度の取り組みの事例でありまして、事務局が取りまとめたものです。</p> <p>今回から食育推進計画における、推進の柱ごとの取り組みがわかるように取りまとめているということです。平成 25 年度の事業実施状況につきましては4つの推進の柱ごとに、事例集も活用しながら、いくつかの取り組みの紹介をしていただきたいというふうに思っております。その後、皆様からご感想や新たな取り組みについてのご発言をさせていただくようなことで進めていきたいと思っております。</p> <p>それではまず推進の柱の1「食を通じた健康づくりを实践しよう」それから推進の柱の2「地域の食文化を伝えあおう」推進の柱の3「地産地消をすすめよう」という3つの柱を推進する取り組みの例としまして、事例集の1から6ページの事例を提供いただきました熊谷委員からご説明をお願いしたいと思います。</p>

熊谷委員	<p>それではご説明いたします。資料は1ページから6ページまでになります。食育推進事業取り組み事例ということで、最初は仙台市立燕沢小学校の学校給食週間の事例を載せました。昨年度まで私が勤務しておりました学校でございます。ただ燕沢小学校だけではなくて、仙台市の学校では、毎年1月24日から30日にかけて、多少、学校によってずれはありますが、全国学校給食週間に合わせて、それぞれの学校で取り組みを行っております。そこで学校給食の意義について知らせ、給食をつくる人々への感謝の気持ちを表したり、思いやりのある心を育てるということで、給食週間を行っております。</p> <p>燕沢小学校ではそれぞれ感謝の気持ちをお礼の手紙に書いたり、作文、絵、ポスターにしたりということで行ったり、それから正しい箸の使い方の学習を兼ねて、豆つかみ大会を行っております。1年生から6年生まで全校児童全員が各クラスで予選に参加しまして、クラス代表2名が決勝に進むという形で取り組んでおります。そういった意識化とそれからこの週には、宮城県の郷土料理を献立に取り入れて、地場産品について子どもたちに味わってもらいながら、食育を推進するという形になっています。</p> <p>地場産品に関しては3ページから4ページにかけて、これは給食日より、保護者向けの啓発資料になりますが、「みやぎのおいしさいただきます」ということで、米どころ宮城、それから海の幸、山の幸にも恵まれている宮城の伝統料理であったり、それから地場産品を使った献立であったりということで、提供をしております。</p> <p>5ページ6ページにかけては、また別な取り組みですが、これは仙台市の小学校教育研究会の中に学校給食部会というのがございまして、それぞれ地区ごとに研究、研修等を行っております。その中の1つの取り組みで、栄養教諭、学校栄養職員が中心となっている研修で、夏休みにこれは行ったものでございます。</p> <p>レストランのシェフを講師に招いて、宮城特産の食材を使って、そのメニューの調理実習を行う、宮城県の学校給食会というのがございまして、ホテルユニサイトの料理長熊谷達雄様をお招きして、「千切り人参と蟹のマリネ、オレンジ風味」などをはじめ、地場産品の小松菜、みちのく森林鶏、ブルーベリー、米粉というようものを使って実習を行った事例でございます。以上でございます。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。では続いて推進の柱1の中でも、地域の方々の食を通じた健康づくりの実践を推進する取り組みについて、16ページの事例を提供いただきました仙台市食生活改善推進員協議</p>

	<p>会の相澤委員からご説明をお願いします。</p>
相澤委員	<p>それでは仙台市食生活改善推進員連絡協議会から、平成 25 年度の取り組みについて発表いたしたいと思います。食生活改善推進委員会というのは、全国に至っております、日本食生活協会が親として、都道府県すべて入っております。そしてみんなで基本目標として、「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに掲げて、昭和 38 年度から始まっております。</p> <p>宮城県も昭和 38 年から始まりまして、秋保は昭和 53 年から仲間入りさせていただきました。平成 25 年 12 月 12 日に生涯骨太クッキング事業を実施しましたけれども、これも日本食生活協会からの事業としていただきまして活動してまいりました。対象者は 30 歳から 60 歳、参加者が 15 名でした。実施内容としてはテキストがあります。食生活改善協議会のほうからいただいたこの資料に基づいてすることになっておりましたので、これを参考にいたしました。</p> <p>そして生涯骨太クッキングということで、大人の食育とロコモ予防、そしてロコトレでロコモ予防の講話をしました。みんなロコトレにも大変関心を持って、これからも心がけてロコトレをしようねとか、積極的にお話ししていただきましたので、私たちも大変嬉しく思いました。その後、調理実習をしました。毎日の食卓に牛乳・チーズなどの乳製品を取り入れて、規則正しい食習慣と食事バランスを身につけることを意識しながら調理実習をいたしました。</p> <p>たくさんの乳製品を使っの料理でしたので、調理方法によってはさまざまに変わっていくメニューを、みんなとつてもびっくりしながら作っていました。そして口々に、家に帰って家族につくってあげようねと、満足そうにみんな喜んで帰りましたので、私たち食改員も継続ができることを嬉しく思い、とても安心して講習会を終わることができました。以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。ロコモティブシンドロームの改善ということで、なかなか興味深い活動でした。それでは続きまして推進の柱の 4 である、食品を選ぶ確かな目を持つという取り組みについては、事例集への記載がありませんけれども、食品表示や食の安全についての市民向けの講座を開催したということで、情報を発しておられる仙台・みやぎ消費者支援ネットの取り組みについて、佐々木委員からご紹介をお願いします。</p>
佐々木委員	<p>私たちは健康で安全な消費生活を守るために活動してまいりました。平成 24 年 12 月に消費者教育推進法がスタートしました。消費</p>

者が置かれている状況が複雑化し、次々に形を変えた消費者問題が発生している昨今です。市民が学び合い、支え合う消費者市民社会の構築の重要性が今まで以上に増してきております。

その中で私たちは啓発活動の1つとして、昨年9月21日から12講座を開催いたしました。その第2回目として、食品表示の一元化と食の安全についてというテーマで、弁護士の神山美智子先生からお話を伺いましたので、その資料を皆さんにお配りしたものです。ぜひ食品を選ぶ確かな目を持つということ、お役立ていただけたら幸いです。読ませていただきます。

食品表示については以前から表示方法が課題とされておりました。食品の安全性確保と消費者の適切な商品選択の機会の確保を目的に、食品表示法が成立いたしました。講座を通してどのような表示であれば、食の安全が守られるものになるのかについて、学ぶことができました。ですが、その中の課題の1つとして、「わかりにくい」「真実を表さない表示基準」というものに気がつきました。その2つの事例をここに掲げてご紹介します。

1つ目は、食品添加物の全面表示の必要についてです。現在は複数の添加物をまとめて表示する、一括名表示を記載すればよいことになっております。実際には何種類もの添加物が使われていても、表示からは内容について知ることはできません。

例えば「うまみ成分」としてグルタミン酸ナトリウム、コハク酸ナトリウムなどのアミノ酸類を何種類か使用している場合、調味料（アミノ酸など）という一括名を表示するだけでよいことになっております。食品添加物を避けたいと思っても、知らない間に多くの添加物を摂取してしまう可能性がございます。

韓国では、食品添加物の多くは物質名と用途を併記して表示することになっているそうです。食品選択の基準として全面表示を目指していただきたいということを願っております。

2つ目といたしまして、遺伝子組み換え食品の表示基準改正の必要性でございます。私たちは何となく不安を感じながら、遺伝子組み換えと書いていないものを選んで、「書いていないからいいのね」と安心しておりますが、遺伝子組み換え食品はすべて表示しているとは限りません。8つの農産物、これはパパイヤ、ジャガイモ、大豆、トウモロコシなどなど8つの農産物。それとそれらを原料とする33の加工品群とだけなっております。その33食品群に含まれておりますが、その原材料の重さ、上位3品目に入っていないければ表示義務はあ

	<p>りません。</p> <p>さらに上位3品目に入っている場合、重量の5%以内なら表示義務はないのです。少量ならば表示されないため、知らず知らずに私たちは遺伝子組み換え食品を食べていることになっていると思われま</p> <p>す。また遺伝子組み換え作物を使用している場合、表示義務がないのがお醤油や食用油、トウモロコシで作られた甘味料、果糖・ブドウ糖液糖でございます。牛や豚、ニワトリの飼料のほとんどはトウモロコシなどの遺伝子組み換え作物であります。飼料は遺伝子組み換え表示の対象外であります。つまり間接的に遺伝子組み換え食品を食べていることになっております。</p> <p>欧州連合では遺伝子組み換え作物を使用したすべての食品と飼料に、表示義務があることとでございます。欧州連合を参考にした表示基準改正を期待したいものであります。以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。大変丁寧にご説明いただきました。消費者問題ステップアップ講座ということで、12回開催した中の第2回目のご説明ということでした。食品表示について政府のほうでも、一括表示についての議論は終わりました、これからどうするかという形になっていると思えますけれども、表示に関してはなかなか大きな問題だと思えます。</p> <p>それでは推進の柱ごとの事例集も活用して、平成25年度の取り組みをご紹介いただきましたけれども、本日は昨年度、保育所連合会で作成されましたランチョンマットを皆さんにお配りいただいております。推進の柱1、食を通じた健康づくりの実践の取り組みとして、保育所に通うお子さんとその保護者の方々に情報発信をされている取り組みについて今野委員、保育所連合会からご紹介いただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
今野委員	<p>このステップアップ朝ごはんのランチョンマットは仙台市保育所連合会給食会研究委員会で作成しました。研究委員会は仙台市公立・民間保育所の栄養士で構成されており、保育所給食を通して、子どもの食生活の質の向上を図ることを目的に、さまざまな食育活動を行っております。平成25年度は家庭の食生活調査を行い、朝食内容の質の向上を目的として、子どもと保護者が一緒に参加できる食育活動を行いました。</p> <p>朝食を毎日食べている子どもたちが増えてきていますが、食事内容としては主食だけを食べている子ども、飲み物やくだものだけを食べている子どもたちの様子が見受けられます。保護者は朝食の大切さは</p>

	<p>知っていても、バランスのよい朝食になると、朝の慌ただしい時間になかなか作れない様子がうかがえます。</p> <p>そこでバランスのよい食事を子どもと保護者に知らせることが必要と考えました。子どもの食事の充実を図るために、子どもが実際にランチョンマットを作成し、主食・主菜・副菜・汁物の場所に食材カードを置き、食事の充実のための食育活動を実施しました。その際の調査で 70 %の家庭が今後もこのランチョンマットを使用したいと答えております。家庭でのバランスよく食べる指標として、食事のたびに使用していただけたらと思います。</p> <p>ステップアップ朝ごはんのランチョンマットの表側には、主食・主菜・副菜・汁物の配置場所に各料理を載せて、バランスのよい朝食に近づくきっかけとし、裏側には朝ごはんをおいしく食べるポイントなどを紹介しております。これを 3 月末に各保育所を通して、保護者に配布しました。今回、栄養士が力を合わせてつくりましたランチョンマットですので、後でゆっくりご覧いただきたいと思います。以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。大変立派なランチョンマットになっておりまして、副菜・主菜・主食・汁物・その他とこうなっています。ご飯をどちら側に置くかとか、味噌汁がどちら側とか、文化として確立しているわけですが、間違える方もいらっしゃると思いますので重要だと思っています。ありがとうございました。</p> <p>今までこの 4 つの柱をそれぞれ意識した形で、この事例集にも取りまとめてありますので、それぞれに従ってご説明いただいたということになります。</p> <p>皆様、それぞれ取り組みを推進する際に、この推進の柱を意識されると、取りまとめ、あるいは報告のときに非常に役立つと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは続いて議事の（４）に移ります。平成 26 年度食育推進事業計画についてでございますが、はじめに皆様から平成 26 年度の新規事業や拡充事業などを中心にご紹介いただき、共有していきたいと思っております。</p> <p>それでは資料 2 に基づきまして、順次皆様にご発言をお願いいたします。はじめに、医療や栄養の専門的な取り組みから、仙台市医師会の青沼委員からお願いいたします。</p>
青沼委員	<p>仙台市医師会からお話し申し上げます。資料の 6 ページ、平成 25 年度とほとんど変わりはありませんが、簡単にご説明いたします。</p>

	<p>B-6 学校健診の場で指導ということで、糖尿病精密検査・生活習慣病検査、貧血検査を各健診の後で、食の改善、運動等、事後指導を継続的に実施するという事です。次に、その下 B-7 です。食物アレルギーへの対応事業ということで、仙台市内保育所と学校などにも食物アレルギー対応改訂版を活用して、指導・助言をするということをやっております。</p> <p>次に 8 ページ B-8、乳幼児健診事業ですが、乳児健診 2 か月、4～5 か月、8～9 か月、1 歳 6 か月児、3 歳児健診において、乳幼児の健康的な成長を促すための栄養指導を実施すると。最後にもう 1 つ、13 ページです。D-3、特定健診、基礎健診、診査後の事後指導、特定保健指導ということで、これも毎年行っております。</p> <p>変わったところでは平成 25 年度から新規に取り上げられました血清クレアチニン検査。これは最近、慢性腎臓病＝CKD って略語ですけども、これが話題になっておりまして、進行しますと透析に陥ったりするという厄介な病気ですけども、これを血清クレアチニン検査ということで、早期発見・早期治療に努めるということでやっております。以上です。</p>
津志田会長	<p>どうもありがとうございました。それでは仙台歯科医師会の鈴木委員、お願いいたします。</p>
鈴木（直）委員	<p>仙台歯科医師会の鈴木です。仙台歯科医師会の事業としては、昨年とほぼ同様の事業でございます。1 ページ目の 6 月 7 日の「歯と口の健康づくり市民のつどい」に関してですが、大体、皆さん自分たちの行きたいコーナーだけ行って帰られる方が多いので、すべてのコーナーを回っていただくように、今年はスタンプラリーというのを行いましたところ、参加者も増え、いろんなコーナーにすべて回っていただけるようになって、大変いい企画でございました。</p> <p>次に、1 ページ目の 1 の市民向け冊子の配布についてです。例年『smile』という冊子でお口の中のことや、食生活のことについての啓発をしているのですが、新しい冊子、今回は高齢者向けのものができましたので、これを各歯科医院、あるいはいろんなイベントごとに配布をして市民の方に啓発をしております。主なところは以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。それでは栄養士会の千石委員、お願いいたします。</p>
千石委員	<p>はい、栄養士会の千石です。今回、新規事業はないのですが、重点目標、重点事業というところでは 15 ページを開けていただいでよろしいでしょうか。宮城県栄養士会は公益社団法人ということになりま</p>

	<p>して、より一層公益性の高い事業を展開していこうというところで、2番目「いい日いい汗栄養まつり」というのがあるんですが、こちらは毎年行っているんですが、もう少し重点的にしようというところがあります。それから健康づくり公開講座も重点的にというところがあります。</p> <p>「いい日いい汗栄養まつり」に関しましては毎年開催しており、今年で11回目になります。資料1の平成25年度の食育推進取り組み事例集の18ページに載っているのので、こちらを見るとイメージができると思いますのでご覧ください。いろんな団体と連携をいたしまして、ステージイベントや展示コーナー、それから体験、相談コーナーがあります。そこに行くと1日遊んで、食べたり、試食コーナーや軽食コーナーもあったり、それから相談もできるということで、とても楽しんでいただきまして、毎年皆さん楽しみにお待ちの方もいらっしゃいます。今年も11月23日アエルということで、これからずっとこの日、この場所でやっていくことになっています。</p> <p>それから健康づくり公開講座は、昨年初めて行いました。一般市民向けの講座で、健康日本21の生活習慣病の疾病予防、重症化予防を鑑みて、高血圧、脂質異常症、糖尿病という3つの病態に絞って、こちらの栄養士会は管理栄養士と栄養士の集まりでございますので、栄養の講話とそれから調理実習も交えて行います。去年行いまして大盛況でした。</p> <p>これも先ほどの取り組み事例集19ページに昨年度のものが載っています。調理室で調理をするということで、25名定員ということにしておりまして、45名とかかなりの人数の皆さんがお集まりいただきまして、一部お断りをするというところもありましたので、今年も続けて、この一般向けの栄養講座を開催します。8月6日と9月8日の、2日間の日程は決まっております。10月もする予定ではありますが、まだエル・パークの予約状況がまだわからないというところで、日にちが決定しておりません。ほかにもいろいろな事業がありますが、重点的にこの2つをやっていきたいというところなので、ご紹介いたしました。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。それでは子どもたちとその保護者を対象とした取り組みということで、仙台市小学校長会の熊谷委員、お願いします。</p>
熊谷委員	<p>資料5ページからになりますが、5ページの真ん中ほどのところには各学校で取り組む、年間の計画を立てて取り組んでいるというよう</p>

	<p>なことが記載されています。それで給食に関しましては食育の日というのが、毎月 19 日を食育の日として、何かテーマを設けて献立を立てて、うちの学校の場合ですとこの間は「噛み噛み献立」ということで、よく噛んで食べる食材献立、メニューが出て、よく噛んで食べましょうというような意識づけをしたり、6月が食育月間でございまして、ここも学校単独調理校に関しましては、それぞれ工夫した取り組みが行われました。</p> <p>向山小学校の場合は、ワールドカップにちなんでワールドカップ応援献立を行いました。3試合献立を立てるのは随分前なので、よく試合の日がわかったなと思ったんですけども。アフリカの料理と地中海料理と、コロンビアなので南米の料理のようなもの。校長の職務に検食というのがございまして、子どもが食べる 30 分前に食べ終わらなければならないのですが「初めて食べました」と言ったら、「私も初めて作りました」と言われました。南米のコロンビアはコーヒーとジャガイモが特産ですと、ちゃんと子ども向けに資料が出て、今回はジャガイモ料理ということで、何かホワイトシチューのようなものだったんですが、それとあとレンズ豆のトマト煮のような、メキシコ料理みたいな豆料理の形で出てきました。</p> <p>それぞれの学校で工夫して意識づけをして、毎日の給食をちょっとずつ、子どもたちの食育の時間に、自然に与えられるような努力というか、そういう取り組みをしております。</p> <p>6 ページの望ましい食習慣については、学校だけでは難しいところもございまして、保護者の皆さんにご協力をいただいております。保護者の方の給食試食会や P T A 行事など活用しまして、6 ページの一番上の 4 番「望ましい生活習慣形成」の呼びかけなど、先ほど給食だよりの一例もご紹介申し上げましたが、レシピなども載せて、ご家庭でもぜひつくってみてはいかがでしょうかというような形で啓発をしています。</p> <p>それから 7 ページにつきましては、学校の主に給食主任と申しまして、給食を担当する教諭とそれから栄養教諭、学校栄養職員で参加している研究会の中で、年間を通した活動をしております。今年は講演会なども 11 月に行いながら、講師を招いて勉強会なども行って、研修を積むという計画でございまして。以上です。</p>
津志田会長	それでは次に、幼稚園連合会の高橋委員にお願いします。
高橋（由）委員	それでは幼稚園連合会のほうの実践について、昨年度と特に大きく変わるようなところはございません。資料の 4 ページの 5 番のところ

	<p>に書いてございますが、各園で給食を行っておりますので、園児とそれから未就園児の保護者を対象に給食の試食会を行いまして、食事のバランスについての講座などを設けております。</p> <p>それから資料の7ページ、こちらは職員と教員を対象にしたものです。「食べるのが楽しくなる食育」ということで、各園で実践してきた活動の見直しをしたり、情報交換の場を設けるようなことしております。それから資料の18ページ、こちらも園児と保護者を対象にして「食べるのが楽しくなる食育」ということで、実際に幼稚園での栽培園とかそういったものを実践したことを例に挙げて、食育の情報などをして、食事のマナーなどを園児と保護者に伝えていくというような事業を計画しております。以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。それでは保育所連合会の今野委員、お願いいたします。</p>
今野委員	<p>はい、それでは資料6ページをご覧いただきたいと思います。B-7の2番の保育所連合会栄養士研修等ですが、栄養士の研究委員会においては毎年テーマを設けて研究発表を実施し、成果を上げております。平成25年度は子どもの朝食の欠食と内容の充実に向けた研究をし、推進してまいりました。</p> <p>その研究結果から親子で一緒に食事をしている家庭では、朝食内容が充実していることがわかりました。そこで平成26年度は親子で一緒に食べる大切さを知らせる共食、「共に食べる」を目指して、保護者の朝食内容の充実を図る研究を実施しております。</p> <p>次に3番の保育所連合会給食担当者研修ですが、昨年より仙台の伝統野菜を使った行事食をテーマに、調理実習を実施しております。農家レストランを経営なさっている方を講師としてお招きし、研修後実際に保育所給食に取り入れ、地場産物の推進に努めており、今年度も継続してやっていく予定です。また食物アレルギーについても給食担当者に研修会を実施し、資質向上を図っていることを考えております。保育所連合会から以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。次に、仙台・みやぎ消費者支援ネットの佐々木委員、お願いします。</p>
佐々木委員	<p>平成26年度の計画といたしましてご報告いたします。1ページをご覧ください。まだ始まっておりません。消費者市民講座の事業名として市民講座でございます。実施計画の内容といたしましては、食と健康について、食糧事情との付き合い方、見極め方について学習したいと思っております。また食品ロスの問題を考えるということで、考</p>

	<p>え中でございます。また同じように食品ロスについても、生ごみの堆肥化、コンビニ弁当、家庭の中での実態を知ろうとか、ワークショップをしてみましようかという計画を立てております。</p> <p>それから 27 ページをご覧くださいませ。これも課題でございます。事業名は「食品ロスの問題を考える講座」となっておりますが、これも変更があるかもしれません。先ほど発表いたしましたように、遺伝子組み換え食品の実態と課題について、これはまだまだ勉強の必要性があるということで考えております。食品表示の実態と課題、これも同じくまだまだ継続して、勉強して、皆さんにお知らせしたいものと思っております。以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。それではチェーンストア協会東北支部の中野委員からよろしく申し上げます。</p>
中野委員	<p>チェーンストア協会は継続の取り組みなんですが、20 ページ、5 番に記載しておりますように、スーパーマーケット体験学習ということで、こちら 5 A DAY 協会と一緒に、小学生を対象とした体験学習を実施していきたいと思っております。</p> <p>昨年よりも回数を増加させたいというようなことで、計画をしています。また、22 ページにあります。地産地消ということで、特に店内の入り口、一番目立つところに地場野菜を中心にコーナー化をしまして、そこを積極的に売り出していくということを継続していきたいと思っております。以上でございます。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。それじゃ農業生産流通という立場から、J A 仙台の飯川委員、お願いいたします。</p>
飯川委員	<p>私たちの取り組みにつきましては、J A 仙台食農教育プラン 2013 という計画がございます。それを実践するという形で、22 ページから載せてございます。22 ページの学校給食の食材の供給、それから 24 ページのあぐり塾の開催と学童農園、それから 25 ページには豆腐づくり講座ということで、これについては継続して行ってきたいということになります。</p> <p>1 つ新たな取り組みとして、皆さんのほうに情報提供をさせていただきたいのが、仙石線陸前高砂駅前に「たなばたけ高砂店」という、売り場面積でいうと、270 坪の売り場面積で、これは、J A 仙台で運営しております直売所でございます。ここで年代別の食農教育を平成 26 年度行っております。今説明させていただきました食農教育プラン 2013 の中の、小学生でいえば、直売所から出荷していただいている農家の方々の食材として学校給食に供給していますよというもの。</p>

	<p>それから高校生では今回仙台商業とコラボしまして、菓子工房でスイーツを開発して、7月の初めまで販売をしております。ちょっとイメージをしていただきたいんですけども、レアチーズとエクレールですが、レアチーズにつきましてはニンジンピューレを合わせて、細かく刻んだスナップエンドウの食感を楽しんでいただけるレアチーズ。それからエクレールにつきましては、ブロッコリーのペーストを加えたおからカスタード。イメージ湧きますでしょうか。</p> <p>東京の中目黒にある「ポタジエ」という野菜スイーツの専門のお店がございますけれども、そのプロデュースで今スイーツ工房を設けておりまして、その中で今回は仙台商業の高校生と、今お話ししたレアチーズとエクレールを7月の上旬まで販売をしております。</p> <p>この会議は女性の方が過半数を占めているようでございますので、ぜひ陸前高砂駅前徒歩1分のたなばたけ高砂店へご来店いただければと思います。</p> <p>その同じ敷地内の脇にベジキッチンという、調理のできる建物がございます。そこでは野菜ソムリエを講師に迎えまして、料理教室を月に1回開催しています。そういう形で小学校・高校、大人の方々の食農教育をJA仙台のたなばたけ高砂店という、その敷地内の建物を拠点として平成26年度は展開をしています。それが新たな取り組みです。よろしく願いいたします。</p>
津志田会長	<p>ぜひ皆さんで行きましょう。どうもありがとうございました。次に相澤委員、お願いします。</p>
相澤委員	<p>20ページをご覧ください。親子の食育教室というのは、秋保では親子の料理教室を開くのに、子どもさんが少なくてなかなかできないので、ここはいつも宮城食生活改善推進員協議会にお願いしてやっております。そして生涯骨太クッキングも今年もと思ったんですが、国の日本食生活協会からまだ来ていないので未定になっております。</p> <p>但し、私たちの平成26年度の事業計画として申し上げたいと思います。この前6月18日に秋保の行事食、昭和58年につくったものなんですけれども、それを見直しながら行事食をつくりましょうということで、勉強会を開きました。</p> <p>それから、8月28日によい食生活を進めるための講習会として、一般の方を対象として、森永乳業さんのご協力も得まして、料理教室を行います。11月には「健康のつどい」があり、160名くらい住民が集まりますので、そのときに食改のPRを兼ねまして試食をしてお</p>

	<p>ります。今年度もまたやりたいと思っております。</p> <p>それから 12 月に幼稚園のお母さんとクッキング教室を行います。秋保と馬場に幼稚園があったんですが 2 年前に合併いたしましたので、支所の近くに幼稚園もできましたので、そのところに調理場も近くにありますので、お母さんが朝に送って来て、帰りに迎えに行くまでの間を利用して、2 年前から幼稚園のお母さんと食改員とで、お料理教室をしております。</p> <p>なるべく行事食に基づいたり、乳製品を利用したり、あとバランスよい食事をつくりましょう、早寝早起き朝ごはん、いっぱい朝ごはんは必ず食べましょうなどのいろんな取り組みをしております。今年もまたやりたいと思っております。以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。生涯骨太クッキング教室とか、まだいろいろとやられる予定ということでしたので、ありがとうございました。いろいろ事業主体からのご説明いただきました。次に、仙台市の事業計画についてご紹介をお願いしたいと思います。子供未来局からよろしく願います。</p>
板橋委員	<p>はい、それではお手元の資料 4 ページをお開きいただきたいと思います。一番下の 8 番、親子調理活動でございます。保育園に併設する地域子育て支援センターや支援室、それから各保育所における離乳食講座や乳幼児食講座の実施を通しまして、地域の子育て家庭への健康的な食習慣についての情報発信を行っております。</p> <p>今年度より保育所入所児童の保護者に対しまして、食事づくりの楽しさや保育所の食事に興味を持ってもらうことを推進するために、働いている保護者が参加しやすい保育参観などを利用いたしまして、親子で食事づくりをし、家庭での親子の食への話題や料理づくりにつなげていければと考えまして、新規事業といたしております。</p> <p>続きまして資料の 7 ページと 8 ページをご覧ください。7 ページの一番下 2 番、それから 8 ページの 5 番 7 番 10 番でございます。乳幼児のお子さんをお持ちの家庭に対しまして、食事についての啓発指導を行っております。例年と同様に各種の健康診断のときの機会を使いまして、乳幼児期の健康な食生活についての啓発や個別相談を、各区の保健福祉センター等と連携して実施することとしております。</p> <p>続きまして資料の 19 ページ、上から 3 つ目でございます。父親の育児参加の促進に向けまして、父親が調理をする子育て世帯向けの、調理体験講座をのびすくにおいて開催をしております。合わせまして父親のつくった料理を家族が食べ、その楽しさを実際に体験するとい</p>

	<p>った食育の観点も取り入れた形で実施をしております。のびすく仙台の「パパ's クッキング」のびすく長町南の「パパ's キッチン」これを今年も例年と同様に開催をいたしまして、食事への関心を高める取り組みを行う予定としてございます。</p> <p>最後に 22 ページの一番上の 1 番でございます。保育所給食における地場産物の活用推進についてでございます。認可保育所全施設におきまして、保育指針における食育の推進の下、職員全体で食育計画に基づいた活動計画を立て、保育の中の食育が継続的に行われております。特に地場産物の利用や収穫物を通して、子どもたちの食への意欲や感謝の気持ちを育てながら、楽しい食事が進められております。</p> <p>本市の保育所におきましては、夏場 6 月～8 月などでございますけれども、地場産物の利用品目数は現状 30 %に近い利用率となっております。通年ベースでできるだけ多くの地場産物の利用品目数を確保できるよう、努めることといたしております。</p> <p>仙台市におきましては、すべての認可保育所に栄養士が配置されております。それから保育所入所児童の食育はもとより、保護者・地域の子育て支援センターなどで、食育の推進にも大きな力を発揮してございます。今後もさまざまな取り組みをさらに発展させながら、子育て家庭に対する食育の推進に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。それでは経済局、お願いいたします。</p>
氏家委員（代理で佐藤農林部長）	<p>はい、経済局では地産地消の推進、それから食材といたしまして、農産物の生産振興、また中央卸売市場を所管しておりますことから、食育推進に関連いたしましては農産物の利用促進や生産・流通・消費の相互理解などの施策を進めております。具体的な事業といたしましては、食育推進計画の 3 番目でございます「地産地消をすすめよう」というのが大きなウェイトを占めておりますが、はじめに食を通じた健康づくりに関する事業の中から、その一部についてご紹介をさせていただきます。 19 ページをお開きください。</p> <p>19 ページ①-G-1の 9 における仙台産農産物親子向けお料理教室の開催についてでございます。仙台産農産物 P R 事業の一環といたしまして、今年度新たに実施することといたしております。中味といたしましては、小学生とその保護者を対象に、仙台産野菜を使った料理教室を 9 月、12 月、それから 2 月の 3 回、広瀬通にございますガス局のガスサロンで開催をする予定でございます。親子で料理を作りながら、調理器具の正しい使い方や食材、食文化について学んでいただき</p>

	<p>たいと考えてございます。</p> <p>次に地産地消でございますが 21 ページの②-A-3をご覧ください。 「地域で開催される様々な行事や催し等で、地域の食材を活用し、郷土料理、行事食などの食文化を伝えます」の6についてでございますが、地元につながる料理で、農家において昔からつくられる家庭料理の講習会を通じまして、地域の食材や郷土料理について学んでいただきたいと思いますと考えてございます。</p> <p>次に 22 ページの③-B の生産・流通関係者との交流、体験の場をつくる取り組みについてでございます。これについては 23 ページ、次のページの③-B-1の5をご覧ください。これにつきましては中央卸売市場におきまして、NHKのテレビ番組「旬の金曜日～市場中継～」での旬の食材紹介でございますとか、8の市民向けの市場見学会を昨年度に引き続き行いたいと考えてございます。</p> <p>次に同じく 23 ページの③-B-1の6、せんだい産農産物表示マーク、愛称「ここでちゃん」の普及でございますが、これによる地産地消のPR活動、さらには直売による生産者と交流をする機会をつくりたいと考えてございます。</p> <p>その次でございますが、生産現場の見学や栽培体験を行います地産地消のサポーター推進事業。さらには次のページ 25 ページの下から3コマ目になりますが、エコファーマーフェアなどの開催をしたいと思っております、地場産の食材でございますとか、地産地消に関しまして、広く市民の皆様にご理解いただける機会づくりに努めてまいりたいと考えてございます。</p> <p>経済局ではただいまご説明いたしました内容、事業以外にもさまざまな事業に工夫を凝らしまして、食育の推進に努めてまいりたいと考えてございます。以上でございます。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。大変盛りだくさんな活動がやられているということです。それでは教育局、よろしく申し上げます。</p>
上田委員（代理で船山総務企画部長）	<p>冒頭申し上げますけれども、教育局におきましても、資料2に掲げられた今年度の事業計画が、これまでと大幅に変わったというものはございません。教育局では毎年度、児童生徒の健康実態調査の一環といたしまして、食習慣に関する調査も行っております。</p> <p>その中で、毎朝朝食を取るということは、この食育推進計画でも、それから私どもでつくっております健やかな体の育成プランでも、1つの取り組みの進捗を図る数値指標というふうに位置づけているわけ</p>

でございます。

このところやはり、90%に行くか行かないかというふうなところで、学年ごとに多少ばらつきはあるんですが、ほぼ横ばいという状況になってございます。こういうことも踏まえまして、やはり望ましい食習慣の定着ということにおきまして、いろいろと工夫を重ねながら、粘り強く取り組んでいくというふうなことが必要ではなからうかと考えておりまして、今年もまた取り組んでまいりたいと思っております。資料2の5ページ中段の「学校での様々な活動において『食に関する指導』を充実させます」ということでもございまして、食育において、学校における取り組みがやはり中心になるだろうと思っております。先ほど熊谷会長職務代理者から学校での取り組みをいろいろご紹介いただいたわけですが、1番のところでございますが、私ども教育局におきまして、昨年度末に食に関する指導の手引の改訂を行いました。

先ほど資料1で、様々な団体で取り組みになっている事例集がこの会議の中でも配布をされましたけれども、そのような学校における具体的な取り組み事例なども載せながら、それぞれの学校において、どのような取り組みをしていくのかというふうなことの具体的なイメージみたいなものを持っていただけるような、そのような取り組みが必要なのではないかと思います。改訂を行ったわけでございます。

そのような新たな手引きなどもご活用いただきまして、それぞれの学校において、特徴を生かしながら、食育の取り組みを強めてまいりたいと考えてございます。

それから、2ページでございます。2ページの上から2つ目、11番でございますが、学校給食フェアというのを実は昨年度から始めました。今年度も継続開催を予定してございます。

これはこの建物の地下に市役所の食堂があるんですが、市役所の食堂で実際に給食のメニューを提供して、さらに壁面などに給食に関する資料を掲示させて、PRさせていただくという取り組みでございました。一般の方にとってもやはり給食は懐かしい、そういういわば素材なのだというふうに思いますが、そのような給食を通じまして、栄養バランスとか伝統行事と食との関わりでありますとか、地産地消の取り組みなど、さまざまな点でPRできればと考えてございます。

それから、9ページ中ほどに親子食育講座を掲げてございます。これは小学生と保護者の方を対象に、PTAや社会学級さんなどに多大なご協力を得て実施をさせていただいているものでございます。

	<p>例年、地産地消でありますとか、朝食づくりなどを各団体において、さまざまな内容を取り上げていただきまして、調理実習や講話などそのような内容で実施をしていただいているところがございます。最近では 50 を超える学校において実施されておりまして、児童それから保護者の方で 3 千から 4 千名くらいの参加がいただいているものがございます。</p> <p>ご参加いただいた皆様からは、家庭で食について考えるいい機会となったというご意見も、アンケートなどでいただいております、引き続き継続して取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。そのほか、6 ページやほかにも取り組みがございますが、後ほどご覧をいただければと考えています。</p> <p>教育局でも引き続き学校教育の面、それから生涯学習の面ということで、工夫を凝らしながら、取り組みを進めていきたいと考えてございます。皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。学校給食フェアについて、市役所の食堂は通常から一般に開放されているんですか。</p>
上田委員（代理で舩山総務企画部長）	<p>一般の方もご利用いただけます。フェアについて、昨年の取り組みは 5 日間で、食数が実は違って、最初 30 食でご提供させていただいて、評判がよかったので、後半に 50 食に増量させていただいたんですが、おかげさまで、お昼前に完売しました。</p>
津志田会長	<p>それでは健康福祉局、よろしくお願いします。</p>
高橋（宮）委員	<p>私からは健康福祉局と保健福祉センターの取り組みのうち、若い世代への食育活動についてご説明をいたします。資料の 11 ページをご覧ください。この 11 ページの 3 番の、大学との連携による若い世代への食育推進事業でございます。これは大学生が平成 22 年度から 25 年度まで、主体的に行ってまいりました食育プロジェクトの中で、啓発用のリーフレットを作成いたしました。今年度はこうした啓発媒体を活用いたしまして、市内の大学に情報提供をし、学生の食への関心を高めてまいりたいと考えております。</p> <p>さらに今年度は大学の保健管理の関係者と情報交換会を、開催をいたしまして、大学間の食育ネットワークを構築しながら連携した取り組みを模索してまいりたいと考えております。</p> <p>次にその下の 4 番でございます。若い世代の健康づくり支援事業でございます。これは青葉区保健福祉センターの取り組みでございます。平成 21 年度から専門学校と連携をして、健康情報を掲載した二</p>

	<p>ニュースレターを発信しており、また実際に学校を訪問して、学校職員や学生の意識啓発に取り組んでまいりました。今年度は専門学校と連携したネットワーク会議を開催をして、学生たちの現状や課題を踏まえた食育活動を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>最後に同じページですが、7番の食育推進連携事業「Morning Vegetable ～朝食に野菜を～」という事業でございます。これは太白区保健福祉センターの取り組みでございまして、平成23年度から「モーベジ」という言葉をキーワードに、レシピ集を作成して配布したほか、保育所・幼稚園・小学校の給食だよりで紹介したりいたしまして、学生や子育て世代に朝食の大切さを働きかけてまいりました。昨年度は大学や高校の先生の協力をいただき、授業の中でモーベジを啓発するポスターを作成しておりますが、その1つとしてこの会場にポスターを掲示しておりますが、近くで見ますと、本当に目にも鮮やかということと、何か朝にサラダを食べたくなるという、そういう気持ちになる、素晴らしいポスターでございます。</p> <p>今年度はこうした視覚に訴えるポスターを活用しながら、朝食をテーマとした情報誌を、これも保育所・幼稚園・小学校、そして大学に定期的に配布することで、モーベジをさらに浸透させる取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p> <p>本来、食育はすべての世代で行われることが必要であります。健康福祉局が特に若い世代への働きかけに力を入れている理由といたしましては、ただ単に食への関心が低いということだけではなく、そもそも食育というのは親から子どもへ伝えることが望ましいと考えているからでございまして、そのアプローチの1つとして、1つには保育所・幼稚園、あるいは小学校の子どもたちを通して、子育て家庭に働きかけると。</p> <p>それから2つ目としては、将来家庭を持つことになる若者層に働きかけることによりまして、長い目で見るとすべての世代に食育の輪が広がるのが期待できるのではないかとございまして。今後とも委員の皆様と連携しながら、そしてまた委員の皆様からのご提言をいただきながら、食育活動に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。仙台市の各局からの計画のご発表をいただきました。事業主体の皆様とそれから仙台市からご発言いただきました。かなり広い範囲で、膨大な数のいろんな取り組みがされるということでした。ここで、市民公募委員として参加いただいております。</p>

	伊藤委員から発言お願いしたいと思います。今お聞きになってさまざまなコメント等がありますが、よろしくお願いします。
伊藤委員	<p>はい、いろいろな分野の方々がいろいろな取り組みをなさっているのを、こうやって改めて知りました。若い世代の食の状況というのを、私の知人の例で申し訳ないんですけど、言わせていただきますと、健康的な食生活に関心はあるんだけど、それをどうやったら毎日続けていくのかわからないとか、健康的な食事ってそもそも何なんだろうというのを言っている人がとても多くて、何を食べていいのかわからないと言っている人がとても多いです。私の周りのサラリーマンであったり、OLの子なんですけど。</p> <p>なので忙しさとか作る暇がないとかもあると思うんですけど、その小さな一歩、小さなことから始めたらいいんだよっていうのを伝えるにはどうしたらいいのかなというふうに、いつもそういう話を聞くと思うんです。</p> <p>健康的な食生活をしたいけれども、どうしたらいいかわからないという人たちが、こういったたくさんの取り組みをもっと目にする機会がふやすためには、どうしたらいいのかなと思います。以上です。</p>
津志田会長	伊藤委員のほうから、若い方々の実情として、関心はあるけれども、一歩踏み出すことがなかなかできにくいというお話がありました。もう1人市民公募で津田委員がおられますので、ご発言いただいてからディスカッションしたいと思います。よろしくお願いします。
津田委員	<p>第一の感想は、いや、大変なところに来てしまったなというのが感想です。やっぱり食育って生きる基本かなと思います。そしてその一部分だけ充実しても足りないこと、食は一生涯続くことなので、本当にトータルで重ねていかなくちゃいけないんだなということを改めて感じました。</p> <p>特に私は長い間、保育のほうに関わってきた者として、健康福祉局長さんがお話しされていましたが、どの分野でも食育っていうのはとても大事だけでも、これから家庭をもたれる方とか、そういうところで子どもに関わるであろう、その人たちがより食育に関心を持って、次代を担う人たちを育てていける、またその力を携えていけるような人たちが育ってほしいなと思うのと、またトータルで健康に過ごせるというところを、本当に大切にしていかなくちゃいけないんだなということを感じました。ありがとうございます。</p>
津志田会長	ありがとうございます。家庭を持たれる若い方々の影響力と言いますか、将来にわたっての影響力があるということで、そういうところ

	<p>への傾注、力を入れていくというようなお話もありました。今お2人の市民公募委員からいろいろご意見いただきましたが、それに対する回答をお持ちの方、それ以外でもいいんですけども、皆様からコメント、あるいは質問等ありますでしょうか。何か関連づけてあれば、一緒に議論していきたいというふうに思っておりますが、どうでしょうか。</p> <p>伊藤委員からお話がありましたけれども、その食育に関して、関心は当然皆さんあると思うんですね。関心があるけど、なかなか一歩が踏み出せないというご発言でしたけれども、今日のこの計画書、あるいは事例集ですね、いろいろ見ましても相当の数を実施主体のほうでやられているんですね。</p> <p>もちろん仙台市のホームページでも紹介していますので、そういうところにアクセスしていただければ、こういうのがやられているんだなというのがわかりますし、またさまざまな計画についてもそれぞれ情報提供を、それぞれの場面でされているということにはなるんですが、なかなかそういう情報にアクセスできていないというのが実態のような気がします。食育の輪を広げていくため、関心はあるけれども踏み出せない方々への取り組みとして何かアイデアをお持ち、あるいはその経験をお持ちの方がおられましたら、ご発言いただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。</p> <p>J A仙台さんはつくる側からですけれども、かなり広範な、年齢層から言うと子どもから高齢者まで、相当な方々を対象にしておられると思いますけれども、そういう方々を見て関心を持たない方々に対して、何かこうすればいいんだよということはありませんでしょうか。</p>
飯川委員	<p>広い範囲で皆さんのほうに、お声がけというのはなかなか難しく、限度があるかと思えますけども。例えばめぐり塾、今回4回目を迎えますけども、23名の塾生がいらっしゃいます。私たちからすればそこで例えば田植えのときには、ただの田植えだけではなくて、例えば環境保全米という取り組みの中で、減農薬減化学肥料って、これだけ手もかけながら、安全安心な米づくりをやっていきますよという情報を発信する。</p> <p>6月には、根白石のリンゴ農家の摘果の作業を今回初めてやっていただきました。根白石のリンゴ農家は、もう今9戸しかおりません。そのような現状をお話ししながら、1人で1.2ヘクタールの摘果をやると、60代の農家の方々なものですから、相当、体にこたえるんだよというふうなことを、一般の市民の方々、塾生の方々にそれを知</p>

	<p>っていただいて、その方の口から今の例えば米づくりはこうなんだよとか、仙台でもリンゴをつくっているのを知っていましたかと。でももう9戸の農家の方しかリンゴ農家の方いらっしゃらないんですよとか。</p> <p>そのように参加していただいた方の口から、口伝いにいろんな情報がまた発信されていくと。それが話題になってどんどん発信されていくと。それも大切なことじゃないかなというふうに思います。それが実際にその方は見て、体験をして、語る言葉ですから、それには真実もありますし、重みもあるということになりますので、そういうような情報を必ず付け加えて、参加していただいた方には、そんな情報を必ず皆さんのほうに、背景をお伝えする工夫はさせていただいております。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございました。私も大学にいますので、学生を見て思うんですけれども、学生はできれば長く寝ていたいので、なかなか朝ごはんを食べたり、食べなかったりの人が多いんですけれども、農産物を作るところには皆さん興味あるんですよね。どうやって作っているんだろうとか。</p> <p>あとはもう1つは料理ですね。作って食べるというのが、もしチャンスがあればやりたいというふうに思っている人が多いので、私たちの大学としては農場がありますので、そこに連れて行ったり、またいろんな料理コンテストみたいな募集がありますので、そういうところにグループで参加させるというようなことをやらせています。</p> <p>そこから食べることへの関心を強めていくと言いますか、他人の食べ方も含めて関心を持つような形にしていこうと思っています。やはりそれでもなかなか、参加して頂けない方もいますので、難しい問題だなと思っています。何かそういう面、そのほかの面、あるいは今までお話ししたけれども、言い忘れたことがありましたらご発言をお願いします。私もあいさつでお話ししましたがけれども、若いころ特に小さい子どもに対する親の接し方が物すごく重要な部分になります。もちろん結婚されて子どもをこれから産んで家庭をつくられるという世代も影響力は大きいです。実際に、子どもと向かい合っている方々に対して、今一番に、何かをやっていただくのも重要なかなと思ったりしています。幼稚園連合会の高橋委員、どうでしょう。その辺のところについて。</p>
高橋(由)委員	<p>そうですね。やはり保護者の方たちも、例えばうちの園で言いますと、週に1回だけお弁当があるんですけれども、そのお弁当を作るの</p>

	<p>もやはり大変だとか。あと朝ごはん、いろいろ家庭環境にもよって違うんですけども、朝ごはんを子どもに食べさせるのも大変だという方もいらっしゃるんです。</p> <p>例えば朝ごはんも、今日はパン1枚だけだったというのを、果物とか何かをプラスしたらいいんじゃないですかっていうようなことで、ちょっとしたことから少しずつアドバイスしたりして、周りに伝えていくというようなやり方を私はやっています。</p> <p>全体にと言うと、なかなか難しいところがあるかと思うんですけども、少しずつやはり、先ほどのお話でもあったように、口伝えで皆さんのほうに伝えられるような形というのも大事なのかなと思います。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございます。情報をどう伝えるか、関心のない層についてどう積極的にアピールしていくか、それぞれの実施主体も含めて、仙台市としても大きな問題ではないかなと思ったりします。健康福祉局では今の伊藤委員のご発言について何かありますか。</p>
健康増進課長	<p>さまざまなご意見ありがとうございました。伊藤委員からいただいた、健康的な食事について、実際どういうふうにやっていったらいいんだろうとか、何を食べていいかわからないというお話、また、こういう取り組みをどういうふうに知らせていったらいいんだろうかというお話をいただきました。</p> <p>私どもも例えばこの事例集ですけれども、ホームページでも情報提供をしているところでございます。なかなか関心がないと、仙台市の食育のホームページまではたどり着かないと思いますので、こういうポスターの掲示ですとか、それから最近ですとコンビニエンスストアと連携しまして、例えば作れない、作る時間がないという若い方にも、コンビニやスーパーで買って構わないので、そのときにバランスを考えて買いましょう、食べましようというようなことを発信しています。</p> <p>これといった、ピタッとくるような明快な取り組みというのはなかなかないんですけども、ぜひ本日お集まりの委員の皆様で、お互いに興味を持たれた活動や、それから一緒に何かコラボできるのではないかと、連絡を取ってみようかなといったところがございましたら、お互いに発信したり、情報を吸収していただいたりしながら、連携していけたらと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございます。今日いろいろご議論いただきましたので、健康増進課長からご発言がありましたように、それぞれ問題点が</p>

	<p>共通していれば連携して活動ができるようお願いいたします。お互いの顔を見ながら、目と目で通じ合えるような関係で連携できますよう、皆様よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは本日の議題は以上でございます。最後にその他の項目です。委員の皆様、あるいは事務局から何かございますか。</p>
健康増進課長	<p>本日はありがとうございます。事務局から3点ほど連絡事項がございます。まず1点目はこの食育推進会議の第2回目の開催日程でございます。概ね2月ごろを予定してございます。またご案内を差し上げますので、どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>2つ目につきましてはそのご案内と同時にお願ひを差し上げたいと思ひていることです。今年度の食育推進に関する取り組み事例集の作成にあたり、ぜひまた、皆様から原稿等を寄せていただきたいと思ひますので、活動なさる際には写真やさまざまな反応、手ごたえ等も合わせて把握していただけるとありがたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>3点目は先ほど来ご紹介をしております Morning Vegetable、朝食に野菜を取りましょうという、このモーベジという標語を使って、広く朝食を毎日食べるように、そして朝食の内容が充実するというを願ったこのポスターにつきまして、ぜひ委員の皆様方にもこの啓発に加わっていただきたいと思ひておりますので、何枚かポスターを持ち帰っていただけるようにご用意してございます。</p> <p>先ほど申し上げたように、太白区保健福祉センターで、実際に大学や学生の力を借りながら作ったものでございます。必要な枚数等をお話いただければお渡しをしたいと思ひます。ちょっとお荷物にはなりますけれど、ぜひご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。私のほうからは以上です。</p>
津志田会長	<p>ありがとうございます。ではモーベジのポスターを渡していただけるということですので、ご協力よろしくお願ひいたします。ではほかにごございませんでしょうか。ないようですので、議事を終了させていただきます。皆様から様々なご意見をいただきました。ご協力ありがとうございます。これで事務局に進行を引き継ぎたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
進行	<p>以上をもちまして、平成 26 年度第 1 回仙台市食育推進会議を閉会いたします。</p>
	—了—

平成 年 月 日
署名委員